

日時 令和8年8月2日(日)

13時30分～16時00分(13時開場)

※参加申込締切 令和8年7月27日(月)

※申込方法は裏面をご確認ください。

場所 愛媛大学南加記念ホール
(松山市文京町3 城北キャンパス内)

参加費無料
オンライン
併用開催

会場 150人(先着順)

共催 愛媛大学俳句・書文化研究センター、松山坊っちゃん会

後援 愛媛県、松山市、愛媛県教育委員会、松山市教育委員会

プログラム

【開会】13:00～13:35

挨拶 杉森 正敏 (愛媛大学地域協働推進機構長)

【報告1】13:35～14:00

間違いだらけ!? 漱石の書いた漢字・仮名

佐藤 栄作氏 (松山坊っちゃん会会長/愛媛大学名誉教授)

【報告2】14:00～14:25

「常用漢字表」の字体・字形に関する考え方

武田 康宏氏 (文化庁国語課主任国語調査官)

～休憩～

【ディスカッション】

14:40～15:50

佐藤 栄作氏・武田 康宏氏・田坂 文明氏

(愛媛大学教職大学院特定教授)

司会：清田朗裕 (愛媛大学俳句・書文化研究センター/教育学部准教授)

【閉会】15:50～16:00

挨拶 小助川 元太 (俳句・書文化研究センター長)

総合司会：神楽岡幼子 (愛媛大学俳句・書文化研究センター/法文学部教授)

<背景写真出典元：伊予鉄グループ>

現在・未来の文字の正誤を考える

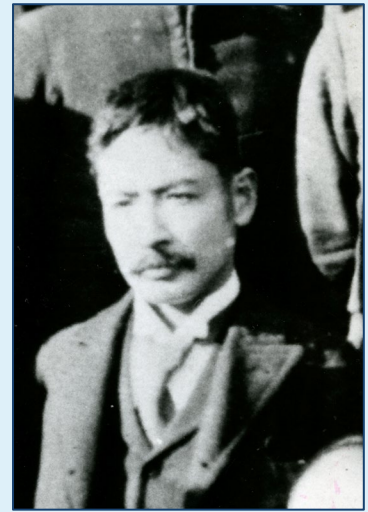
開催趣旨

文字は手で書くものから、「打つ」ものに変化しつつある今、正しいものを「選び」さえすればいいのだから、筆で書く時のハネ・ハライ、筆順は意味がないととらえる人もいます。その一方で、ハネ・ハライは、それぞれの字に必須の要素であり、手本の通りに書かないといけないという人もいます。これからは、私たち日本語母語話者が漢字文化圏以外をルーツとする人とともに日本語を用いる場面も増えてくると予想されます。どのように書けば「正しい」のか、間違ではないのか。手書きが揺らぐ今こそ、考えておきたい事象です。

120年前、夏目漱石の名作『坊っちゃん』が発表されました。『坊っちゃん』は戦後長く中学国語教科書に掲載されてきたので、国民文学の代表と言っていいでしょう。多くの人々が活字で読んできました。実は、『坊っちゃん』には夏目漱石自筆の原稿が残されています。それを見ると、どうも「誤字」ばかりなのです。漱石は漢字が苦手だったのでしょうか。漢字が書けるのが国語力なら、漱石は国語力がなかった？そんなことはありません。当時と現在とで文字・表記のルールが変わったことが大きく影響しています。果たしてそれだけでしょうか。将来の日本語の文字・表記の正誤を松山で考えるのに、『坊っちゃん』は、最もふさわしい資料になるのではないのでしょうか。

今回、まず、『坊っちゃん』の文字・表記を分析してきた佐藤栄作氏が漱石の文字・表記について報告し、それを受けて、「常用漢字表」の改定、「常用漢字表の字体・字形に関する指針」を取り纏め、「ローマ字のつづり方」の改定で、中心的な役割を果たして来られた文化庁国語課主任国語調査官の武田康宏氏に、現代から将来への日本語の文字・表記の「正しさ」についてお話しいただこうと思います。さらに、愛媛大学教職大学院特定教授の田坂文明氏も加わったディスカッションを行い、武田氏に、会場の皆さんからの疑問・質問にお答えいただきます。

愛媛大学俳句・書文化研究センター
センター長 小助川 元太



夏目漱石
(1896年(明治29年)頃)
＜松山市立子規記念博物館提供＞



『坊っちゃん』の原稿
(1906年の原稿の複製)
＜『夏目漱石全原稿 坊っちゃん』
番町書房1970年刊＞

参加申込

以下の参加申し込みフォーム、
もしくは右記の二次元コードからお申込みください。

▼参加申し込みフォーム

<https://forms.cloud.microsoft/r/bDPJX8bfis>

■お問い合わせ 愛媛大学地域協働支援部地域協働課
メール：bunkeicj@stu.ehime-u.ac.jp
電話：089-927-8145
※月～金(祝日を除く) 9:00～17:00

締切
7/27(月)



会場周辺地図

*いただいた個人情報は、本シンポジウムに関する連絡のみに使用させていただきます。

*大学構内には駐車スペースはございません。

近隣の有料駐車場をご利用いただくか、公共交通機関をご利用ください。

*オンラインの場合は、パソコン、スマートフォン、タブレットでの参加が可能です。

(※Wi-Fi環境を推奨)

*オンライン参加用URLは、登録いただいたメールアドレスに前日までにお知らせします。